

平成 28 年度

事業報告書

自 平成 28 年 1 月 1 日

至 平成 28 年 12 月 31 日

公益財団法人 競走馬理化学研究所

I 事業の概要

平成28年の日本経済は、マイナス金利政策の導入や個人消費の冷え込みによる影響が懸念されたが、総じて緩やかな回復基調を維持した。こうした中、競馬界における発売金は、発売網の整備効果を下支えとして、スターホースの出現や新人女性騎手の活躍などの話題性も加わって、中央競馬、地方競馬ともに前年を上回る実績を達成した。

こうした堅調な推移の中で、競走馬理化学研究所は、信頼に基づく事業の的確な運営および高度化する業務の効率的な実施はもとより、競馬の国際化に対応した検査法の開発研究を通じ、競馬の公正確保に不可欠な機関としての役割を果たした。

薬物検査およびDNA型検査の各事業においては、競馬主催者、血統登録機関などからの依頼に応じて、競走馬、飼料、騎手、軽種馬などを対象とする検体について検査した。このうち薬物検査部門では、4月以降、禁止薬物検査に8薬物を追加し、また、競技外検査を全ての主催者に拡大して実施した。

研究事業においては、日本中央競馬会から委託された「治療薬物の休薬期間の設定に関する研究」、「検出基準値を適用する禁止薬物の定量分析法の設定に関する研究」、「競走馬における薬物の使用実態に関する調査・研究」および「競走中および調教中に発症した重篤な疾患の遺伝学的調査・研究」の4テーマについて、薬物規制の国際化への対応と競走馬の事故防止に立脚して取り組んだ。また、これらの研究成果を用いた発表や学術交流を行った。

一般化学分析事業においては、馬伝染性子宮炎の検査、妊娠馬のホルモン検査、スピード遺伝子検査を実施したほか、治療薬物の血中濃度の測定などを積極的に受託した。また、6月からは体高遺伝子検査を新たに開始し、スピード遺伝子検査に併せて実施した。

日本中央競馬会の助成による「競走馬理化学研究所における薬物検査体制の国際標準化事業」においては、4年計画の2年次計画に従って、検出可能な薬物および物質の大幅な拡充に向けた検査法の開発研究を実施した。

Ⅱ 業務関係

1 競走馬の薬物検査に関する事業

1) 競走馬の薬物検査

(1) 禁止薬物の検査 (レース分)

検査件数 43,763 件

陽性件数 4 件

(2) 規制薬物の検査 (レース分)

検査件数 2,712 件

陽性件数 3 件

中央競馬

競馬場	検体数	競馬場	検体数	競馬場	検体数
札幌	433	中山	1,474	阪神	1,476
函館	432	東京	1,618	小倉	720
福島	720	中京	937	レース分計	10,372
新潟	938	京都	1,624	再検査	0
				計	10,372

地方競馬

競馬場	検体数	競馬場	検体数	競馬場	検体数
帯広	3,234	大井	3,260	姫路	0
門別	1,998	川崎	1,979	高知	3,087
盛岡	1,584	金沢	2,079	佐賀	2,483
水沢	1,526	笠松	2,101	レース分計	33,387
浦和	1,498	名古屋	2,624	再検査	4
船橋	1,696	園田	4,238	計	33,391

(3) その他の検査

検査件数 67 件

陽性件数 4 件

2) 飼料等の薬物検査

検査件数 1,152 件

陽性件数 11 件

区 分		カテゴリーA	カテゴリーB	イプラトロピウム	8 薬物	計
内 訳	日本中央競馬会	39	0	39	8	86
	岩手県競馬組合	2	0	2	0	4
	飼料業者など	392	261	293	116	1,062
計		433	261	334	124	1,152

注) カテゴリーAはイプラトロピウムを除く全ての禁止薬物、カテゴリーBはカテゴリーAのうち自然界に存在する薬物、8 薬物は4月に禁止薬物に追加となったものを対象とする検査。

3) アナボリックステロイド等の検査

(1) 競技外検査 (日本中央競馬会および地方競馬主催者)

検査件数 5,294 件

陽性件数 0 件

(2) セール上場馬の検査 (日高軽種馬農業協同組合および千葉県両総馬匹農業協同組合)

検査件数 322 件

陽性件数 0 件

(3) その他の検査

検査件数 101 件

陽性件数 0 件

区 分		国際交 流競走	育成馬	自主 検査	計
内 訳	日本中央競馬会	9	74	0	83
	特別区競馬組合	6	0	0	6
	日本調教師会 関西本部	0	0	8	8
	岩手県調騎会	0	0	3	3
	調教師 (佐賀県競馬組合)	0	0	1	1
合 計		15	74	12	101

4) 騎手の薬物検査（日本中央競馬会）

検査件数 136 件
陽性件数 2 件

5) 馬術競技馬の薬物検査（公益社団法人日本馬術連盟）

検査件数 16 件
陽性件数 0 件

6) 薬物検査法審議委員会

(1) 委員の委嘱

氏名	職名など	区分
今井 一洋	武蔵大学薬学部客員教授	再任
尾崎 博	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	〃
川原 貴	国立スポーツ科学センター長	〃
輿石 一郎	群馬大学大学院保健学研究科教授	〃
下田 実	東京農工大学農学研究院教授	〃
豊島 聰	公益財団法人日本薬剤師研修センター理事長	〃
吉田 武美	公益社団法人薬剤師認定制度認証機構代表理事	〃
石館 光三	3月31日付任期満了	退任

任期：平成28年4月1日～30年3月31日

(2) 委員会の開催

薬物検査法審議委員会を開催し、諮問した審議事項について承認を得た。

第51回薬物検査法審議委員会 3月14日

(審議事項)

競走馬薬物検査の方法及び判定基準の一部改正について

禁止薬物

「尿を検査材料とする薬物検査の方法及び判定基準」

「Ⅰ 塩基性薬物及び中・酸性薬物の検査法及び判定基準（MU-7）」の一部改正について

「Ⅶ アセプロマジン、キシラジン、デクスメドミジン、デトミジン、プロピオニルプロマジン、メドミジン及びロミフィジンの検査法及び判定基準（MU-10）」の一部改正について

「血液を検査材料とする薬物検査の方法及び判定基準」

「I 塩基性薬物及び酸性薬物の検査法及び判定基準 (MP-1)」の一部改正について

第 52 回薬物検査法審議委員会 12 月 12 日

(審議事項)

競走馬薬物検査の方法及び判定基準の一部改正について

禁止薬物

「血液を検査材料とする薬物検査の方法及び判定基準」

「I 塩基性薬物及び酸性薬物の検査法及び判定基準 (MP-3)」の設定について

「尿を検査材料とする薬物検査の方法及び判定基準」

「I 塩基性薬物及び中・酸性薬物の検査法及び判定基準 (MU-7)」の一部改正について

7) ISO (国際標準化機構) 試験所認定の維持

試験所および校正機関の能力に関する国際規格であり、国際競馬統括機関連盟 (IFHA) により認定取得が義務付けられている ISO/IEC 17025 : 2005 に適合した薬物検査体制を維持するため、マネジメントシステムを厳格に管理し、薬物検査業務の確実な実施に努めた。また、4 月に認定機関である公益財団法人日本適合性認定協会による第 3 回更新審査を受審し、試験所認定に継続して適合していることが認められた。

8) 公認競馬化学者協会 (AORC) 主催の技能試験への参加

AORC が各国の競走馬の薬物検査機関に対して毎年提供する技能試験に参加し、正答率 100%の成績を収め、競走馬の薬物検査能力が証明された。

9) 競馬分析化学者および競馬獣医師の国際会議 (ICRAV) への出席

10 月 15 日から 10 月 22 日まで、ウルグアイ東方共和国モンテビデオ市で開催された第 21 回 ICRAV に職員等 2 名を派遣し、ICRAV 総会および AORC 総会などの会議に出席し、海外における薬物規制の動向や最新の検査技術などに関する情報収集と意見交換をするとともに研究成果を発表した。また、職員 1 名は会議前に開催されたアナボリックステロイドやペプチドの分析ワークショップおよび IFHA 遺伝子ドーピング規制小委員会に参加するとともに、遺伝子ドーピングに関する講演を行った。

2 馬の DNA 型検査等に関する事業

1) 軽種馬の親子判定および個体識別検査（公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル）

検査件数 7,185 件

親子関係否定件数 0 件

区 分		検査件数
内 訳	子 馬	6,815
	種 雄 馬	37
	繁殖雌馬	103
	個体識別	230
合 計		7,185

2) 軽種馬の毛色の遺伝子検査（公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル）

検査件数 769 件

3) 馬の新生児黄疸症予防のための血液検査（公益社団法人日本軽種馬協会）

検査件数 66 件

4) その他の検査

(1) 重種馬などの DNA 型検査および血液型検査（公益社団法人日本馬事協会）

検査件数 8 件

(2) ユニバーサルドナー選定のための検査（日高軽種馬農業協同組合他）

検査件数 56 件

(3) 性染色体の検査（馬生産者）

検査件数 4 件

5) 国際動物遺伝学会（ISAG）主催のホースコンパリソンテストへの参加

ISAG が実施するホースコンパリソンテスト 2015-2016 に参加し、正答率 100%の成績を収め、DNA 型検査機関として必須となるランク 1 の評価を取得した。

6) 国際動物遺伝学会議への出席

7月23日から7月27日まで、アメリカ合衆国ソルトレイクシティ市で開催された第35回国際動物遺伝学会議に職員2名を派遣し、馬の親子判定およびDNA研究に関連するワークショップに参加し、海外における親子判定検査の動向や最新の研究に関する情報収集と意見交換をするとともに、研究成果を発表した。

3 研究に関する事業

1) 日本中央競馬会からの委託研究

(1) 治療薬物の休薬期間の設定に関する研究

競馬の国際化の進展に伴い、特定の治療薬を対象とするスクリーニングリミット (SL) に基づく薬物検査の導入が国際協調のもとで進められている。本研究は、国内において治療目的で使用される薬物の休薬期間を設定するために、薬物投与実験データから SL を算出し、検出時間 (DT) を決定することを目的とする。

平成 28 年度は、ケトプロフェン、ジクロフェナクおよびデキサメタゾンを対象に、アジア競馬連盟薬物規制委員会の指針に従って馬への薬物投与実験を実施し、経時的に採取した血液および尿中の薬物およびその代謝物の濃度を定量し、3 薬物の SL に基づいて DT を決定した。

(平成 27 年度から 3 年計画)

(2) 検出基準値を適用する禁止薬物の定量分析法の設定に関する研究

SL や残留限界値が設定されている禁止薬物のスクリーニング検査においては、結果の判定は検査材料中の検出対象物質の濃度に基づいて行われるため、検出対象物質の濃度を正確に定量できる分析法を設定することが求められる。

本研究では、SL を適用する尿中サルブタモール、血漿中フロセミドおよびリドカインと残留限界値を適用する尿中アトロピン、カフェイン、スコポラミン、テオフィリン、モルヒネおよび血漿中カフェインの定量分析法を設定した。

(平成 28 年度の 1 年計画)

(3) 競走馬における薬物の使用実態に関する調査・研究

新たに規制対象とする薬物の選定および治療薬の適正使用の徹底を図る上で、競馬における薬物の使用実態に関する情報を得ることは極めて重要である。本研究は、レース後に採取された尿あるいは血液およびレースや調教において重篤疾患を発症した競走馬から採取された血液を対象に、広範な薬物の使用実態を調査することを目的とする。

最終年度である平成 28 年度は、初年度に構築したガスクロマトグラフィー/質量分析法および液体クロマトグラフィー/高分解能質量分析法を組み合わせたブロードスクリーニング法を主体とした調査方法を用いて、日本中央競馬会により新たに指定された要監視薬物や海外において陽性報告があった薬物を中心に使用実態の調査を実施した。その結果、薬物規制および適正な治療薬の使用に関する有用な情報が得られた。

(平成 26 年度から 3 年計画)

(4) 競走中および調教中に発症した重篤な疾患の遺伝学的調査・研究

本研究は日本中央競馬会に在籍する競走馬を対象とし、統計遺伝学的な手法により競走中および調教中に発症した重篤な疾患における遺伝要因の関与を調査するとともに、分子遺伝学的手法により関連するゲノム領域を特定する。

最終年度となる平成 28 年度は、これまでの研究成果をもとに、骨折発症の原因となる候補遺伝子あるいは関連領域を同定するため、ゲノムワイド関連解析 (GWAS) あるいはコホート解析を行った。その結果、GWAS では骨折発症に影響を及ぼす遺伝子は確認されなかったが、コホート解析では 18 番染色体上に腕節部骨折に対して影響を及ぼす遺伝領域が存在する可能性が示唆された。

(平成 26 年度から 3 年計画)

2) 研究成果の発表など

- (1) 7 月 7 日、日本中央競馬会競走馬総合研究所において、平成 27 年度の日本中央競馬会委託研究発表会を開催した。
- (2) 委託研究などの成果は、ICRAV、ISAG、日本薬学会年会、日本分子生物学会年会などにおいて発表した。また、国内外雑誌 6 誌に論文を公表した。

学会発表

表 題	報告学会など
How do we deal with Gene doping in Horse Racing Industry?	第 36 回アジア競馬会議
FD-LC-MS/MS 法を使用したキシラジン投与後のウマ血漿中変動タンパク質の解析	日本薬学会第 136 年会
薬毒物試験法Ⅱ-4 向精神薬試験法 抗痙攣薬および抗てんかん薬	〃
Distribution of Y chromosomal haplotypes in Japanese native horse populations	第 35 回国際動物遺伝学会議 (ISAG)
Estimation of heritability for fracture in the Thoroughbred racehorse	〃
Genetic risk for fracture in the Thoroughbred racehorse	第 21 回競馬分析化学者および競馬獣医師の国際会議 (ICRAV)
Pharmacokinetic/Pharmacodynamic modeling and urinary elimination profile of medetomidine after intravenous administration to horses	〃

表 題	報告学会など
Simultaneous screening method of doping drugs from equine plasma by Q-Exactive HF high resolution LC/MS in full scan / data dependent MS/MS mode	第 21 回競馬分析化学者および競馬獣医師の国際会議 (ICRAV)
Transcript profiling of peripheral blood induced by drug stimulation in horses	〃
What is gene doping? What can racing authorities do now to tackle gene doping-related issues?	〃
後期育成段階にあるサラブレッド種の馬体重への MSTN および LCORL の影響	日本ウマ科学会第 29 回学術集会
サラブレッド筋肉中のカルノシン濃度：筋肉種による差異と運動能力との関連	第 58 回競走馬に関する調査研究発表会
Sequence variants of BIEC2-808543 near LCORL are associated with body composition in Thoroughbreds under training	第 39 回日本分子生物学会年会

論文報告

表 題	報 告 誌
A simultaneous determination method for 5-fluorouracil and its metabolites in human plasma with linear range adjusted by in-source collision-induced dissociation using hydrophilic interaction liquid chromatography-electrospray ionization-tandem mass spectrometry	Biomed. Chromatogr.
Shifting the linear range in electrospray ionization by in-source collision-induced dissociation	Chem. Pharm. Bull.
Profiling of exercise-induced transcripts in the peripheral blood cells of Thoroughbred horses	Journal of Equine Science
Sequence variants of BIEC2-808543 near LCORL are associated with body composition in Thoroughbreds under training	〃
遺伝子治療と遺伝子ドーピング	馬の科学
木曾馬の系統解析と類縁関係	木曾馬種保存事業に関する総合シンポジウム報告集

3) 学術交流など

職員を派遣した講義や外部の者を受入れての技術研修を実施した。

講師派遣

年月日	依頼元	内容	員数 (名)
1月23日 4月9日 6月25日 11月19日	昭和大学大学院 医学研究科	生体の機能解析法 「遺伝医学の基礎」	1
4月11日 ～4月12日	岐阜大学 応用生物科学部 共同獣医学科	総合臨床実習	1
11月25日	公益社団法人 日本分析化学会	第348回ガスクロマトグラフィー研究会 特別講演 「競走馬における薬物検査の現状」	1
12月3日	公益財団法人 日仏会館	講演 「競走馬のDNA－その遺伝に刻まれたもの－」	1

技術研修受入

年月日	依頼元	内容	員数 (名)
10月13日 ～10月14日	公益財団法人ジャ パン・スタッドブック・イン ターナショナル	DNA型検査に関する基礎知識	2

4 一般化学分析事業

1) 馬伝染性子宮炎の検査（日高家畜衛生防疫推進協議会他）

検査件数 1,992 件

区分	事業名など	検査件数
内訳	馬伝染性子宮炎侵入防止事業	1,119
	馬伝染性子宮炎蔓延防止事業	305
	その他(上記事業以外)	568
合計		1,992

2) 妊娠馬のホルモン検査（馬生産者他）

検査件数 348 件

3) 競走馬の遺伝子検査（馬主他）

(1) スピード遺伝子検査

検査件数 54 件

(2) 体高遺伝子検査

検査件数 48 件

4) 木曾馬種の保存事業における受託研究（木曾町）

受託件数 1 件

5) 牛ルーメン中の薬物濃度測定（東京農工大学）

測定件数 55 件

6) 血漿中のプロポフォール濃度測定（日本中央競馬会美浦トレーニング・センター）

測定件数 100 件

7) 血液中の非ステロイド性抗炎症薬検査（馬生産者団体）

検査件数 3 件

8) 広報活動

スピード遺伝子検査および体高遺伝子検査の普及のために馬主、馬生産者、調教師などに対する説明やパンフレット配布などの広報活動を実施した。

年月日	場 所	イベント
4月13日 ～4月14日	JRA美浦トレーニング ・センター	体高遺伝子検査に関する説明会
4月20日 ～4月21日	JRA栗東トレーニング ・センター	
4月26日	中山競馬場	JRAブリーズアップセール
7月11日 ～7月12日	ノーザンホースパーク	セレクトセール

5 薬物検査体制の国際標準化事業

本事業は、IFHA による薬物検査機関認証の取得を目的として、IFHA が定義する広範な禁止薬物の検査が可能な検査体制を構築するために、日本中央競馬会の助成により平成27年から4年計画で実施している。

1) 高感度分析機器の導入

検査法の開発に必要な分析機器などを導入した。

名 称	数 量
液体クロマトグラフ高分解能質量分析計 (nanoLC 仕様)	2 台
液体クロマトグラフタンデム質量分析計	1 台
誘導結合プラズマ質量分析計	1 台
自動測定条件設定ソフトウェア	2 式
自動固相抽出装置など	6 台

2) 薬物検査法の開発

馬の尿、血液および被毛を検査材料として、IFHA が定義する禁止薬物のうち低分子薬物やペプチドホルモン、成長ホルモン、重金属を対象に、スクリーニング検査法および確認検査法の開発に向けた検討および検証を実施した。

また、国際会議およびワークショップに職員を派遣して、薬物規制の動向や検査法の開発手法などの調査や分析技術を習得するとともに研究成果を発表した。

期 間	場 所	会 議 名	人員数
1月23日～1月31日	インド共和国 ムンバイ市	第36回アジア競馬会議	1
10月12日～10月24日	ウルグアイ東方 共和国 モンテビデオ市	第21回競馬分析化学者および競馬 獣医師の国際会議 (ICRAV)、 プレ ICRAV ワークショップ	2

Ⅲ 総務関係

1 評議員および評議員会

(1) 評議員

氏名	職名など	区分
井上 真	日本中央競馬会 常務理事	3月16日就任
岩元 正文	公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 理事	
木村 一人	日本中央競馬会 理事	
釘田 博文	国際獣疫事務局 アジア太平洋地域代表	
田原 文夫	株式会社すかいらく 社外監査役	
留守 悟	地方競馬全国協会 理事	
森 彪	全国公営競馬主催者協議会 常任理事	12月13日就任
小林善一郎		3月11日辞任
宮本 恭一		3月31日辞任
岩崎 幸治		4月1日就任 12月13日辞任

任期：平成30事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

(2) 評議員会の開催

評議員会を次のとおり開催した。

第1回評議員会 3月11日

(決議事項)

第1号 平成27年度事業報告及び決算について

第2号 評議員の選任について

第2回評議員会 12月13日

(決議事項)

第1号 平成29年度事業計画及び収支予算について

第2号 評議員の選任について

第3号 公益財団法人競走馬理化学研究所役員及び評議員の報酬等の支給に関する
規程の一部改正について

2 役員および理事会

(1) 役員

役職名	氏名	経歴など
理事長 (常勤)	益満 宏行	公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団 専務理事
常務理事 (常勤)	黒澤 雅彦	公益財団法人競走馬理化学研究所 研究部長
常務理事 (常勤)	武田純太郎	地方競馬全国協会 活性化推進室長
理事 (非常勤)	兼丸 卓美	日本中央競馬会競走馬総合研究所 技術参事役
監事 (非常勤)	谷口 稔明	社団法人全国家畜畜産物衛生指導協会 参与
監事 (非常勤)	佐藤 信博	日本中央競馬会 馬事部上席調査役

任期：平成 28 事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

(2) 理事会の開催

理事会を次のとおり開催した。

第 1 回理事会 2 月 19 日

(決議事項)

- 第 1 号 平成 27 年度事業報告及び決算について
- 第 2 号 評議員候補者の選定について
- 第 3 号 平成 28 年度第 1 回評議員会の招集について
- 第 4 号 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程の一部改正について
- 第 5 号 職員給与規程実施基準の一部改正について
- 第 6 号 職務の級の決定内規の一部改正について
- 第 7 号 公益財団法人競走馬理化学研究所職員退職手当支給規程の一部改正
について
- 第 8 号 公益財団法人競走馬理化学研究所組織規程の一部改正について
- 第 9 号 公益財団法人競走馬理化学研究所職員退職手当支給規程第 4 条の 3 に
規定する退職手当の支給について

(報告事項)

平成 27 年度における財産の運用状況及び今後の見通し

第2回理事会 3月4日（書面による決議の省略）

（みなし決議事項）

評議員候補者の追加選定について

第3回理事会 3月22日（書面による決議及び報告の省略）

（みなし決議事項）

第1号 競走馬薬物検査の方法及び判定基準の一部改正について

第2号 薬物検査法審議委員会委員の改選について

（みなし報告事項）

第51回薬物検査法審議委員会の審議結果

第4回理事会 7月1日

（決議事項）

第1号 役員の報酬について

第2号 公益財団法人競走馬理化学研究所職員就業規則の一部改正について

第3号 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程の一部改正について

第4号 公益財団法人競走馬理化学研究所会計規程の一部改正について

第5号 会計事務細則の一部改正について

（報告事項）

理事の職務の執行状況

第5回理事会 11月30日

（決議事項）

第1号 平成29年度事業計画及び収支予算について

第2号 評議員候補者の選定について

第3号 公益財団法人競走馬理化学研究所役員及び評議員の報酬等の支給に関する規程の一部改正について

第4号 平成28年度第2回評議員会の招集について

第5号 平成29年度競走馬理化学研究所における薬物検査体制の国際標準化事業実施要領の制定について

第6号 平成29年度競走馬理化学研究所における遺伝子ドーピング及び遺伝的健全性対策事業実施要領の制定について

（報告事項）

1. 理事の職務の執行状況

2. 平成28年度第2回財産運用検討会の審議結果

第6回理事会 12月13日

(決議事項)

第1号 競走馬薬物検査の方法及び判定基準の一部改正について

第2号 公益財団法人競走馬理化学研究所競走馬薬物検査受託規程の一部改正について

(報告事項)

第52回薬物検査法審議委員会の審議結果

3 人事異動

1) 職員 採用 1名 退職 1名

2) 嘱託 採用 4名 退職 1名

役職員などの状況

区 分		1月1日現在	12月31日現在
役員	理事	4 (1)	4 (1)
	監事	2 (2)	2 (2)
参 与		1	1
職員	総務部	6	7
	薬物分析部	20	19
	遺伝子分析部	6	6
	小 計	32	32
嘱 託		6	9 ※
合 計		45 (3)	48 (3)

括弧内は、非常勤の人数で、内数である。

※ うち6名は「薬物検査体制の国際標準化事業」に従事する者。

4 事業の紹介

施設見学や取材の受け入れ、講師の派遣などにより、当研究所の事業を広く紹介した。特に、競馬関係者に対しては、禁止薬物陽性馬の発生防止を目的とする啓発活動を実施した。

施設見学など

年月日	見学者など	内容	員数(名)
平成28年 2月4日	地方競馬全国協会地方競馬教養センター 調教講習生	所内見学・講習	8
3月10日	全国公営競馬主催者協議会主催 経営研究会参加者	所内見学	25
4月8日	公益社団法人日本装蹄協会 装蹄教育 センター 装蹄師認定講習会講習生	〃	13
4月20日	地方競馬全国協会 新規採用職員	所内見学・講習	7
5月18日	日本中央競馬会 競馬学校 厩務員課程生	所内見学	18
5月20日	アラブ首長国連邦 薬物検査機関関係者	〃	5
6月6日	日本中央競馬会 審判部 公正課長他	〃	4
6月13日	日本中央競馬会他 新規採用獣医職員	所内見学・講習	10
6月14日	日本中央競馬会 副理事長他	所内見学	4
7月27日	日本中央競馬会 公正審査委員他	所内見学	9
8月17日	地方競馬全国協会 公正部 公正課長他	〃	3
9月29日	(一財) 生物科学安全研究所 職員	〃	12
10月28日	農林水産省 生産局畜産部競馬監督課他	〃	12
11月11日	(一財) 自然環境研究センター 職員	ヒアリング	2
11月16日	日本中央競馬会 競馬学校 厩務員課程生	所内見学	22
11月24日	地方競馬全国協会地方競馬教養センター 調教講習生	所内見学・講習	8

取材の受け入れ、執筆など

掲載日など	掲 載 誌 など	表題など
1月4日	遺伝子検査技術-遺伝子分析科学認定士テキスト-(改訂第2版)(宇宙堂八木書店)のうち実践編 1. 遺伝子検査の技術 F. 動物の遺伝子解析 a. 感染症 4. 染色体検査の技術 D. 動物の染色体解析	動物における遺伝子検査技術
5月9日	POGの達人 完全攻略ガイド 2016-2017年度版	遺伝子研究の世界
5月11日 5月18日	朝日新聞	日本の在来馬
7月11日 7月18日 (8月6日)	競馬ブック (「馬を巡る旅」(三オブックス)に収載)	遺伝子で馬を探る
9月25日	シリーズ 家畜の科学6「ウマの科学」(朝倉書店)のうち第6章「ウマの遺伝」	ウマの遺伝学

講師の派遣

年月日	派 遣 先	内 容
6月22日	日本中央競馬会 美浦トレーニング・センター 競馬に関する勉強会	薬物検査・DNA型検査

5 附属明細書の省略

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はないため、省略した。